OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

第五卷　第二號

生活の合理化（二）

矢田篤

三　家庭生活の合理化

家庭は、人間生活の第一歩であり、あらゆる人間活動の淵源である。從つてあらゆる生活の合理化は家庭の合理化より始めねばならぬ。彼の世界大戰に於て、獨逸が殆ど全世界を敵として戰ひ、而も一歩も國内に敵の蹂躙を許さなかつたこと、其の後の恐るべき經濟的困窮に際してよく之に堪え、またゝく間に今日の恢復を致したることなどは一に科學發達の賜であり、而も其の發達は家庭生活の合理化、科學化に負ふ處が甚だ多いのである。獨逸では、子供はいはゞ生れると共に科學の殿堂に育つのである。從つて、學校に於て學ぶ前に已に科學的生活をなし、學校で學んだ處は直に家庭に於て實驗し、復習することが出來る。かくて始めてかゝる科學の普及發達が出來たのであつて、單に學校のみに於て科學的知識を授け、學校に於ける授業が家庭並に社會の現狀と甚しき懸隔のある我が國に於て科學の進歩の遲々たるは當然である。今、獨逸の家庭生活が如何に合理的なるかを推知する爲めに、二三の例を擧げむ。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

獨逸の家の各室のガラス窓には、其の內側と外側とに各一個の寒暖計があつて、室內の溫度と室外の溫度とを示して居る。之れ、外出に際して、戶外に出て初めて室外の溫度を知り、着物を調節する手段を省く爲めである即ち、手探り的に溫度の測定をせず、寒暖計といふ客觀的標準によりて、豫め防寒の用意をなすのである。

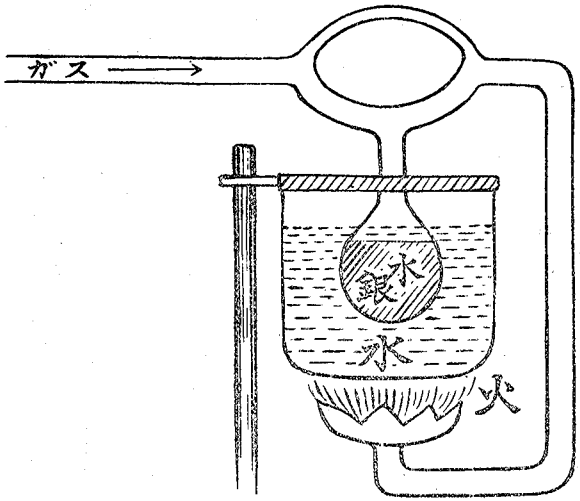
獨乙の下宿屋に入つて多くの人が最初に面喰ふのは、入湯の溫度をきかるゝことである。下宿屋の女中が「あなたは何度の風呂に入りますか」と聞く。私も此の問に面喰つた一人である。事實私は自分の好む風呂の溫度は知らなかつた、それで體溫より少しは溫い方がよいだらうと思つて「四十度」と答へた。そして風呂に入つて見ると、浴槽中に浮べる寒暖計は正に四十度を示して居る。然し、とてもあつくて入ることは出來ない、私はこのとき初めて私の入浴の溫度は三十六七度であることを知つた。

獨乙では普通朝食にはバタ付パン、牛乳、コーヒー、ユデ卵を用ゆる。下宿へ行くと主婦が「どんな堅さのユデ卵がお好きですか」と尋ね、翌朝朝食の後、「今日の卵の煮方はお氣に召しましたか」と聞く。「恰度よい」といつたならば其の次からは、いつも全く同じ堅さに煮て來る。それは臺所の合理化の賜である。即ち臺所には必ず時計と衡とが備へられ、バケツ其他の容器には凡て容量の桝目が記されてある。故に主婦は卵何グラムに何リットルの水を入れ、何度の瓦斯火に何分間かけて煮ればどの位の堅さのユデ卵が出來るかをよく知つて、此の客觀的標準によつて凡てを行ふから、炊事を正確に簡便にし、其の間に考慮を費す必要がないのである。

かゝる空氣中に育てる獨乙國民に如何に科學的知識が普及して居るかについて一二の例を擧げやう。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

私がベルリン工科大學のメーデ博士の心理學實驗室で學んで居たときであつた。そこへ小學校五年の少年三人が被驗者として連れて來られて來た。何れも勞働者の子供にして小學校の成績は中位以下の者であつた。博士は此等の子供を一人々々實驗室に呼び込んで次の圖を示し、其の作用及び用途を問はれた。而して、此の内二人の子供は大體滿足な答をなしたのである。（即ち、ガスが燃え水の温度が上昇すれば水銀の温度も上昇する爲め、膨脹してガス管を塞ぐから、火力が弱くなる。火力が弱くなれば水の温度が下り、從つて、水銀が收縮してガス管が開き、ガスが多量に火に到る。かくて自働的に水の溫度を調節して一定に保つのである。かゝる考案は或る一定の温度を常に保つ必要のある處に裝置すればよい、例へば洗面所や理髮屋のやうに。）



又、私の友人が其の下宿の女中に冬の或日、日本の雪景色のエハガキを示して次の質問を發した。其の女中は二十才位にして小學校を卒業したものであつた。「日本では綿をちぎつた樣な大きな雪が降り、それが樹の葉や小枝にかゝつてこんな美しい美觀を呈するが、獨乙では粉のやうな雪が降り、且つ雪は地上に落ちて樹の枝に少し

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

も止らないのは何故なるか」。之に對して女中は次のやうな明確な答をなしたといつて私の友人は驚いて居た。（日本は氣候が温かいから、雪が地上に近づくに從つて雪の結晶の周圍がとけて濕氣を帶び、多くの粉雪が集つて一團をなして落る爲め綿の樣な雪が降り、又、其の濕氣の爲め、樹の葉や枝にも附着するのである。）

我が國の家庭を省るとき、到る處非合理的な弊が存して居るが、之を改善せんとするには先づ家の目的を考へて合理化の基準とし、此の目的に添ふ樣にすべきである。

元來、家は穴居時代の狐狸の棲所の如き穴や、熱帶地方に於ける鳥の巢の如き家より、文化民族の堂々たる家屋に至るまで凡て或る共通の目的を有する。就中、健康の保持、安慰なる休憩、子女の養育、生命財産の安全は其の最も主なるものである。

人間の體溫は常に三十六度餘を保つて居らねばならぬ、體溫がこれよりも上昇或は下降すれば病的現象を起す從つて皮膚、血管は常に此の一定の溫度を保つ爲めに全力を注ぐのであるが、外氣のあまり冷きとき、又は皮膚表面が濕れるときは體內の溫度は此の空氣によりて傳導、放散せられ、身體は之に抗するを得ず、遂に風邪にかゝるのである。又、外の溫度が體溫に近く、且つ、換氣が惡いときには身體各部の活動より生ずる餘分の熱が放散、傳導されざる爲めやはり病的現象を起すのである。密閉したる室內に多數の人が居るときは、氣分が惡くなりメマヒを起すのは此の爲である。昔は人が多數密閉したる室に居るときメマヒを起すのは、身體から所謂人毒が出て之に中毒するのであると思はれ、化學の發達と共に人毒說は否定せられて呼吸によりて空氣中に二酸化炭

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

素が増加し、酸素が稀薄になる爲めであるといはれたが、人體に有害になる程に二酸化炭素が増加することはメツタにないことはアメリカ合衆國衞生調査會によりて十數年前實驗的に證明せられた。即ち、かゝる室内に居る者に外部より通風管にて新鮮なる空氣を供給し之を呼吸せしめても何等の効なく、又、室外に居る人にかゝる室内の空氣を呼吸せしめても何等の害はないのである。

次に注意すべきは採光である。光が人間の仕事の能率や氣分、衞生に重大なる關係のあることは今更事新しくいふ程のことはなからう。日光の射入に關しては近頃新築の家はよほどよく留意せられて居るやうであるが、人工照明即ち電燈に關しては、まだ甚だ考慮が足らぬやうである。其の内最も慎むべきは直接照明、即ち、光源が直接人の眼にふれるやうな照明の仕方である。かゝる照明に於ては電球の光度は其の附近の事物の光度より數萬倍も強く、從つて人の視野内に極めて光の強き點と極めて光の弱き點とが存する爲め視覺を甚しく惱まし、イライラした不快の感を生ずるのである。完全な間接照明裝置は日本建築に於ては困難なれども、光源を十分半透明なシエードにて蓋ふて光を分散せしめ、以て光源から直接強い光が眼にあたらぬ樣にせねばならない。

尙睡眠中は、室内の照明を全部消して暗黑にすべきである。そは、一には、明き處に於ては光線が常に眼の神經を刺戟する爲め十分深い睡眠が出來ず、又室内が明きときは外部から室内の樣子がよく分り、泥坊の潛入を容易ならしむるからである。室外が明く、室内が暗きときは外部から室内をのぞくことは決して出來ないのである尙泥坊に對する安全に關して一言したきは、外出する際、家の外部から錠をかけることである。これは雨戸をし

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

めて置くと同樣に、泥坊を誘導するものである。換言すれば「此の家は今不在なり」といふことを廣告するのである。そしていかに丈夫な錠でも泥坊は釘拔一つで容易に毀すことが出來るのである。

家庭に於て最も重大なる役目を演ずるのは主婦である。家庭生活が合理化するもせざるも殆ど凡て主婦の努力如何によるといつても過言ではなからう。殊に家庭合理化の基本ともいふべき臺所の改善や、次代の國民たる子孫の養育に關して科學的な合理的な方法を研究し其の改善に努力するは主婦たるもの〻第一の任務である。然るに臺所の仕事に於ても、子女の養育に於ても、從來傳承的手探り的な仕方をなして徒らに時間、勞力及び經費を空費し、子女の自然的發育を却つて妨ぐることが多い。例へば、嬰兒が泣くことは、嬰兒にとつて唯一可能なる全身的運動である。それを盲目的愛情にかられて直に抱きあげ、或は搖るから極めて柔弱な嬰兒の腦其他の機管に故障を生じ、又運動不足の爲めに胃腸の消化が出來ず、自ら身體各部の發達が妨ぐることが少くない。子供が長じて小學校へ入學するに到れば、徒らに復習豫習の助けをなし、時には教師の教ゆる所を訂正する。かくすれば子供は自然教師よりも父母の方が偉ひと思ひ込み、遂には教師の教を蔑視するに至るのである。溺愛されたる子供や、富裕な家に劣等或は不良な子供が比較的多いことを見れば思半に過ぐるものがあらう。

又應急手當に關しても主婦は一通りの知識をもたねばならぬ。傷害、風邪、胃腸病、疫利等の應急手當に要する藥品及び器具即ち檢溫器、氷袋、水枕、ガーゼ、ホータイ、脫脂綿、灌腸器、下劑、下熱劑、傷藥等は之を常に備へ置き、醫師の診斷を乞ふ前に適宜の應急手當をなすべきである。疫痢の如きは病勢が急激に進み醫師の來

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

診の際には已に手當の遲れることが少くない。而しに小兒の發熱は大概消化不良に起因するものなる故、凡ての場合下劑を與へ灌腸をして醫師の來診を待つべく、之に下熱劑を與ふれば往々心臟を害し病狀を益々惡化せしむることがある。

四　風習の合理化

風習は、遠き祖先が其の環境に順應する爲めの最良なる行動や、生活の仕方を累代無意識的に模倣し傳承し來り、吾々も誕生以來或は家庭に於て或は學校や社會に於て無意識的に之を模倣し、習慣性となつたものである。從つて吾々の殆ど凡ての生活は風習に支配せられ、一擧手一投足まで凡ての人々が民族的共通性をもつて居るのである。例へば外國人より見れば日本人と支那人とは殆ど區別が出來ない。然し、吾々は外國の街で遙か彼方を歩いて居る人を見ると、其の歩き方や姿勢で日本人と支那人とを見分けることが出來るのである。

かく、風習は我々の生活行動の眞底までも浸潤して居る爲め、之を反省し變改することは極めて困難である。加之、一の風習は他の無數の風習と密接な關係を有して居り、其の一を改めたのみで全部を改めねば生活合理化にあまり大なる効果なきことが尠くない。例へば、道路を舗裝することは交通上極めて大なる利益があるにちがいないけれども、市街の一部の道のみ舗裝したのでは、車や履物が附近の道路から土を運んで來るから遠く郊外の道まで舗裝するを要し、又、下駄で舗道を歩くと極めて不快な音をたてるから、萬人凡て靴を履くやうにせね

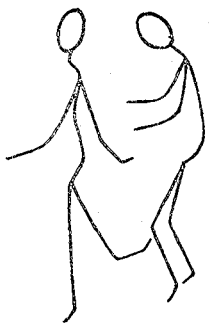
OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ばならぬ。凡ての人が靴を履けば家の構造を改めて疊敷を廢し靴のまゝ上り得る樣にし、之に應じて家具を凡て改めねばならぬやうになる。

かく風習は之を改むることが困難であり、其の關する處も亦甚だ廣く大なれども、時代世相の變遷と共に改めねばならぬものも亦尠くない。前述の如く、風習は吾々の祖先が往古以來其の環境に對する最も適切なる順應の仕方と認めて行ひたることが傳承され機械化したるものである。從つて現代の如く、外國の風習が極めて急速に吾々の生活樣式中に入り來り、漸次吾々の環境の狀態が變化したる時に於ては、たとい幾多の一時的不便や困難ありとも改變の必要切なるものが少くない。

勿論、余は「西洋に於ては斯々する故に我々も斯々せねばならぬ」といふ樣な無定見な淺薄な改變の仕方には全然贊成することは出來ない。例へば婦人の洋裝は便利であるからとて、直に和裝を捨てゝ洋裝にすることは甚だしき誤である。元來服裝は單に寒暑を凌げば足るものではない。特に婦人の服裝に於ては美感は最も重大なる役割を演ずるものであり、その美感は婦人の動作姿勢との調和に於て出來るものである。元來、日本古來の婦德中最も重視されたるは謙讓貞淑である。其の精神は自然に態度姿勢にもあらはれて、女は首を前に屈め、うつむいて歩く。其の爲め、重力の關係から歩行の際次圖の如き姿勢をとるやうになる

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ



（日本婦人の歩行の姿勢）

（西洋婦人の歩行の姿勢）

此の姿勢の醜さを蔽ふ爲めには和服が最も適當である。身體の姿勢のまゝを外部に示す洋式の服裝をする爲めには、日本婦人の歩行の習慣が西洋婦人のそれの如くなつた時でなくてはならぬ。即ち、子供時代より洋裝し、子供時代より、西洋の第一の婦德たる「快活」を涵養されて、西洋婦人の如き姿勢をなす習慣をつけられたるもの即ち現代の小學校又は幼稚園の生徒が成長したる後のことである。

かくの如く風俗習慣中には今急に改變し得ざるものが多いが、こゝにかく他の事情とあまり甚しき關係を有せず、今直に改むべき、且つ改め得べきものを二三擧げて見やう。

先づ第一に時間を守ることである。特に當地方に於ては所謂「讃岐時間」といふものがある、六時の會合といへば八時或は九時に集ればよいと心得て居る。かくては折角定刻に參集したるものは二時間も三時間もあたら貴重な時間を空費せねばならぬ。未だ時計が普及せず世の中がかくまで忙しくなかつた時代に、案内する方にも多少掛値があり、參集する方にも掛引があつた。現代の如く刻一刻を爭ふ競はねばならぬ時代には時間だけは正確に

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

守り度いものである。

第二には生活を規律正しくすることである。勤勞と休養と娯樂との時間を判然區別することである。勤勞の時間にグヅ〳〵して居るが故に多大の人員を要し其の仕事が高價になる。又、休養の時間にグヅ〳〵せる爲め十分な休養が出來ないのである。而して勤勞時間に自己の自由を壓抑せる後には、完全に自由なる娯樂を求めねばならぬ。從來日本の娯樂は多くはあまりに精神を勞したるを以て、現代の如く精神的勤勞の激しくなれる時代には不適當なものが多い。圍碁、將棋、歌かるた等何れも理智的遊戯としては極めて興味深く、西洋の將棋やかるたに比して遙に優つて居るものであらうけれども、精神的勤勞を慰するには殆ど何の益もない。精神的勤勞多き現代に於ては須らく身體的な、戸外の娯樂を求むべきである。獨乙ベルリンの郊外には到る處五坪又は十坪位に區劃せる廣い農園があり、其の中に小さい小屋がある。此の農園は市内居住者が各々借地して一日の勤勞が終りたる後直に一家族打つれてこゝに出かけ、男が鍬を以て耕す間に主婦はコーヒーを用意し、一日の疲勞を醫するのである。

第三に休業日を十分に活用することである。歐米に於ては日曜や祭日には都市の人は殆ど全部郊外散歩に出る。從つて、湖畔も、公園も、林間も、テニスコートも此等の人で非常に賑ふのである。我が國に於ても漸次此の傾向があるが尙一般の人々に休業日の價値が認められず、一ケ月に一日又は二日の休業日を與へらるゝのみであり此の貴重なる休業日も徒らに活動寫眞其他室内の娯樂に費され、郊外へ出かける者は比較的少ないのである。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

由來、我が國民は人を訪問するにもダラシがない。格別の用事もなく、格別の親みもない者が、何等相手の繁閑を顧慮せずに突然訪問して長居するが如き、或は日曜日や土曜日午後の如き完全に各自の自由に時間を消費すべき時に人を訪るが如き惡習は須らく速に止めねばならぬ。

第四、親が子女を何處へでもつれゆくは日本の親子の美しい愛情のあらはれであらう。けれども、音樂會、劇場、活動寫眞館等へ子女を連れゆくことは、子女に對して何等利益なきのみならず、却つて惡い影響を與へ、且つ喧噪の爲め他の人々へ迷惑を與へるのみである。獨乙に於て劇場、活動寫眞、音樂會、舞踏場、カフエ、バー等へ十五才以下の子供を入場せしめたる場合には其の支配人が罰せらるゝことになつて居ることはとつて以て鑑とせねばならぬ。

五　高松市內外の改善

高松市は日本の他の多くの都市と同樣に、新時代に適應すべく各般に亘りて一大改造の必要に迫られて居る。就中、都市計劃、下水道の設置、道路の擴張整頓等は其の最も大なる問題である。然れども之等の問題に就きては已に市當局に於て計劃調査中であり、且つこゝで論ずるにはあまりに大なる問題であるから、余の氣附ける點を大略述べて置きたい。

第一に都市計劃の問題である。由來都市計劃といへば都市擴張即ち隣接町村の併合がつきものであるが、余の

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

觀る處によれば、都市計劃の主旨は其の都市の合理的生活を促進するものでなくてはならぬ。從つて現在の都市は少くとも高松市に就きていへば擴張よりもむしろ縮少すべきであらう。日本本來の都市は平面的なる爲め、水道を敷設するにしても道路を整備するにしても、多額の費用を要し到底完備し得ざるのである。次に都市の商業地域工業地域、住宅地域を判然分ちて各々其れ特有の要求に適合するやう施設せねばならぬ。例へば、商業地域は主として公的社會的生活を營むべき處である。從つて商業地域に私有の庭園を許すが如きは大なる誤である。住宅地域は安息所であるから、空氣清澄にして噪音少くき處とし、家屋建坪を少しく庭園を廣くすることが必要である。

下水道に關しては目下三年計劃で調査中ときくからこゝに只、蚊や流行病の多い高松市に於ては、都市の體面上からも又衛生上からも一日も速に其の完成を望み、市民全般の協力を望む次第である。

高松市の交通に至つてはいふべきことが甚だ多い。先づ道路を見よ、今の道路は高速度の乘物なき時代に作られたまゝの道路である。從つて今日の如く、間斷なき自動車の馳走を許さむには先づあの道路を廣くし、人道と車道とを分ちて、危險を防止し、道路を舗裝して通行者に砂埃と泥沫とをぶつかける無禮を禁止せねばならぬ。

次に電車車掌の不親切に關しては市内の小新聞にしきりに非難せられて居るやうであるが、そは電氣會社當事者の作業合理化の頭がないことに起因する。高松市の電車の如き乘り替へのない單一線に於ては初符に只一ケ所降車驛にのみ鋏を入るればそれで十分であるのに、「日附」に一ケ所或は二ケ所、「乘車所」、「降車所」、「上り」、

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

「下り」など四五ケ所に鋏を入れ、何等の効なき手數を費さしめ、其の爲め車掌には乘客に親切を盡す餘裕がないのである。之を歐米の狀態に比較して見よ、彼處に於ては電車もバスも共に降車所に鋏を入れたる切符を買へば之を降車の際車掌に渡す必要はないのである。只「係員が調べることがあるかも知れぬから御降車までは此の切符を失はぬ樣に願ひます」と切符に記されてあるのである。

電車もバスも乘客の便不便には殆ど何等關係なくなつて居る、折角汽車がついても活動寫眞が終つても其の時間に直に電車やバスに乘り得ることはメツタにない。從つて吾々は待つよりも歩いた方がよいといふ氣になるのである。

次に高松市内の娯樂機關を一弊せむ、其の最も大衆的なるは活動寫眞である。活動寫眞館に又は劇場に於て吾人の最も不快に感ずるのは開演中飲食物を賣うすること丶、觀客の無作法どである。館主の方から見れば飲食物の販賣は利益を擧げる手段であらうが、觀客は觀賞の氣分を殺がる丶ことが極めて多い。これは觀客が開演中決して飲食物を買はぬやう習慣つければ自ら廢せらる丶こと丶思ふ。觀客の無作法中特に甚しきは、場内で帽子を被りて居る者が多いことである。帽子は戸外のみに於て、被るべきものにして、車内に於ても家内に於ても決して被るべきものではない。それを劇場などで被りてうしろの觀客の妨をすることは甚しき無嫌である。尙、子供を連れて之等の場所に入場し喧噪の爲め一般觀覽者の觀賞の氣分を害ふことは是非お互に愼まねばならぬことである。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

次に、運動としては高松では野球が非常に盛である。然し運動を觀ることが盛であつたり、單に一部の人が競技に上達することは運動の本旨ではない。吾人は老若男女をとはず何人も樂み得るやうな運動が盛にならむことを切に望むものである。

眼を轉じて郊外を一瞥せむ。

先づ屋島を見よ、先年ケーブル・カーの出來て以來山上の設備は着々と改善せられた。然れども山上の設備があまりに人工化しつゝあることを吾人憾むものである。眺望佳なる處必ず茶店があり、遙に自然に座して自然に親まむとする者とする者の氣分は遠慮なく茶店女の呼び聲にかき亂さるゝ。

栗林公園は庭園式公園としては天下に冠たるものであらう。只こゝにも茶屋が多すぎ、座すべき芝生を缺げるを憾む。(完)

附言、本稿は昨年八月本校に於て開かれたる成人教育講座に於て述べたる要旨を抄錄せるものである。